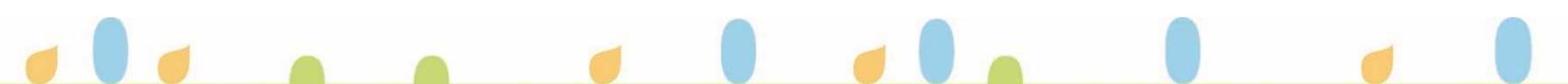


令和2年度
文化庁日本語教育大会（WEB大会）

地域で活躍する外国人の視点から地域日本語教育を考える
～日本語の学びを通して何をめざすのか～



Japanese Language Education

令和2年
文化庁国語課

趣旨

- 地域の日本語教室などでは、支援者として活躍する外国人が増えてきている。
 - 地域で活躍している4名の外国人の方々にお話を伺った。
 - ① どのような活動を行っているのか。
 - ② どのように日本語を学び、どんなことに苦勞してきたか。
 - ③ 支援を行う上で、外国人当事者としての強みは何か。
 - ④ 日本語ボランティアさんに心に留めておいてほしいこと。
- ⇒ 地域日本語教育は何をめざすのかについて考える。

お話を伺った方々

(1) ハッカライネン ニーナ さん (02:49~12:51)

外国人女性の会「パルヨン」 代表理事



フィンランド出身。1992年に来日。

成蹊大学及び東京大学大学院に留学，ヘルシンキ大学大学院修了。日本企業勤務，語学学校校長，大学教員などを経て，2007年に，京都に暮らす外国人女性のサポートを目的とした「外国人女性の会パルヨン」を設立。

2017年，外務省・国際移住機関(IOM)主催の「外国人の受け入れと社会統合のための国際ワークショップー多文化共生社会に向けて外国人女性の生活と活躍を中心にー」パネリスト等，講演活動も活発に行なっている。

お話を伺った方々

(2) 齋藤 俊男 さん (12:52-20:54)

株式会社 ティー・エス CEO



ブラジル出身。1990年に来日。

日系2世。大学卒業後、ブラジルの高校で体育教師をしていたが、22歳の時に「デカセギ」として来日し、5年後に人材派遣業を始める。

2008年のリーマンショックを契機とする人材派遣業の受注減を契機に、農業分野に進出。

2009年に以前より運営していた保育園に加えて、ブラジルの教育カリキュラムに沿って高校まで学ぶことができる「ティー・エス学園」を設立。

2018年、外務大臣表彰受賞。

お話を伺った方々

(3) 又エ 又エ チョウ さん (20:55-28:25)

シュエガンゴの会 主宰



ミャンマー出身。難民である夫と暮らすため、1999年に来日。

1年間日本語学校に通って日本語を学んだ後、2002年にミャンマー料理店「ルビー」始める傍ら、夫と共に店に集う在日ミャンマー人から寄せられる様々な相談に乗る活動を行っている。

2014年、ミャンマーにつながる児童生徒のためのミャンマー語教室「シュエガンゴの会」を始め、現在に至る。

夫妻の歩みは2012年にドキュメンタリー映画になっている。

お話を伺った方々

(1) 佐々木 ^{せいしょう} 聖壘 さん (28:26-37:21)

多文化ユースプロジェクトOB会会長



中国出身。2011年に来日。

中国で中学校を卒業してから来日したため、1年間はフリースクールに通い日本語を学びながら高校進学準備を進め翌年高校進学。

大学に進学してからは、出身高校などで外国につながる生徒に対する学習支援ボランティアや外国につながる若者による多文化共生に関する活動に従事するとともに、外国籍県民かながわ会議の委員も務めている。

2020年より横浜市の職員として中国語での住民サービスも担当している。

4人からのお話のまとめ

どのように日本語を学んできたか,

- * これまでの日本語経験を生かして学ぶ
- * 職場などでの交流を通して学ぶ
- * 周りの人からのサポートを得ながら学ぶ

どんなことに苦労してきたか,

- * 学ぶ時間の確保の難しさ
- * 学び続けることのモチベーション維持の難しさ
- * 読み書き, 特に漢字についての苦労
- * 文化的, 社会的な背景がわからないための苦労

4人からのお話のまとめ

外国人当事者としての強みは何か

- * 日本語を学ぶ人の気持ちや苦勞がわかる。
- * 日本で生活する外国人の生活狀況が理解できる。
- * 日本人には打ち明けにくい話を聞くことができる。
- * 母語による支援が円滑にできる。
- * 外国につながる児童生徒への母語支援など、アイデンティティ形成に関する支援にまで手が届く。
- * さまざまな問題の解決に至るまでの仲介的な行為ができる。

4人からのお話のまとめ

日本語ボランティアさんに心に留めておいてほしいこと

- * 仕事をしながら日本語を学び続けることの困難さ。
- * 日本語学習を継続できない事情があること。
- * カルチャーショックなどで大変な状況に置かれていることがあること。
- * 外国につながる児童生徒については、自分の意志で日本に来たわけではない場合があること。

地域日本語教育は何をめざすのか

地域の日本語教室での日本語の学びを通して、

- * 悩みが話せる。
- * ストレスを軽減できる。
- * 地元の人と交流できる。
- * 日本社会への入り口を見つけることができる。
- * 人を変え、自分を変え、社会を変えていける。

⇒ **地域の日本語教室は「まちづくり」の場**

・地域で活躍する外国人との協働が重要